

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【向小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域において、主に敬語、主語・述語などに課題があることから、引き続き全学年で重点的に取り組んでいきたい。
思考・判断・表現	国語では、「話すこと・聞くこと」の領域において学年によって課題があることから、引き続き協働的な活動を多く取り入れ、考えを自分の言葉で適切に表現したり、相手意識をもって考えを伝え合ったりする言語活動を充実させていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	5、6年生の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を引き続き90%以上を維持していきたい。また、全学年で「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の学習プロセスを明確にした指導を行い、能動的に学ぶ態度を育む態度を育てていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「知識・技能」に関する領域において、昨年度の自校の結果より1.5pt上げる。	⇒ 情報端末等を活用し、「言葉の使い方に関する事項」の指導を充実させる。また、個別最適な学びが行えるよう、体験活動や児童の習熟状況に応じた指導を行う。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「思考・判断・表現」に関する領域において、昨年度の自校の結果より1.9pt上げる。	⇒ 協働的な活動を多く取り入れ、考えを自分の言葉で適切に表現したり、相手意識をもって考えを伝え合ったりする言語活動を充実させた授業を実践する。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査「課題に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答を、90%以上の割合を維持する。	⇒ 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の学習プロセスを明確にした指導を行い、能動的に学ぶ態度を育む。

<小6・中3> (4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「知識・技能」に関する領域において、昨年度の自校の結果より、5pt上がり、目標を達成することができた。算数は+2.0pt、社会は+1.3pt、理科は+2.1ptだった。	A
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「思考・判断・表現」に関する領域において、昨年度の自校の結果より、5.2pt上がり、目標を達成することができた。算数は+1.2pt、社会は+5.2pt、理科は±0ptだった。	A
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査「課題に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、5、6年生の肯定的な回答は97.2%で、目標を達成することができた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+6.9pt、算数+1.5ptであった。算数の分配法則を用いて答えを求める問題で解答類型を見てみると、分配後の答えを分配前の答えと同じであると捉えられていない児童が多かった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+3pt、算数+2.9ptであった。算数の面積の大小について比べて言葉や数を用いて説明する問題において、分かっていることを整理できていない児童が多かった。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は92%であった。引き続き、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いになります。			
小3	・「知識・技能」において、R4年度調査より国語+10pt、算数+1.9ptであった。「思考・判断・表現」においては国語+11.7pt、算数+0.8ptであった。・国語は、話の中心を聞き手に分かりやすく伝えるための話し方と、登場人物の心情の根拠となる文を見つけることに課題が見られた。・算数では、直線の目盛りの読み取りと単位の換算に課題があった。「勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的な回答は国語は73%、算数は85.5%だった。	小4	・「知識・技能」において、R4年度調査より国語+0.2pt、算数-1.6ptであった。「思考・判断・表現」においては国語+1.5pt、算数-1.9ptであった。・国語では、文章の中で正しい漢字を使うことに課題がみられた。また、話の中心を聞き手に伝えるための話し方に課題があった。・算数では、データの読み取りの問題と3けたのわり算の筆算の問題に課題があった。「勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的な回答は国語で73%、算数で74%だった。
小5	・「知識・技能」において、R4年度調査より国語+5.9pt、算数+2.7pt、社-2.5pt、理科+1.9ptであった。「思考・判断・表現」においては国語+4.6pt、算数+3.0pt、社会+2.9pt、理科-2.5ptであった。・国語では、文章の要旨を的確に捉えることに課題があった。問題文と関わる語句だけを採って解答する傾向があった。・算数では、小数の減法の計算、計算法則を活用する問題に課題があった。・社会では、「地理的環境と人々の生活」の領域で、地図記号や地形図に関する理解に課題があった。また、人口が多い地域と地形図、雨温図と気候の特色など、資料と資料を結びつけて考える力にも課題が見られた。・理科では、「エネルギー」を柱とする領域で、電気回路や電池のつなぎ方、磁石の性質についての理解に課題があった。「勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的な回答は国語は75%、算数は72.7%、社会は71.6%、理科は87.5%だった。	小6	・「知識・技能」において、R4年度調査より国語+3.9pt、算数+4.9pt、社会+5.1pt、理科+2.3ptであった。「思考・判断・表現」においては国語+3.1pt、算数+2.7pt、社会+7.5pt、理科+2.5ptであった。・国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域で、主述の関係や、敬語の使い方に課題があった。・算数では、縮尺を基にして実際の長さを求める問題の正答率が低かった。実際の大きさに戻すために乗法が用いられず除法で計算した解答や、加法を用いて必要な長さを追加できていない解答が多い傾向があった。・社会では、方位や地図記号、等高線など地図に関する資料の読み取りに課題があった。・理科では、顕微鏡の適切な手順、簡易検流計の使い方、物は水にとけると液全体に広がることの3つを問う問題の正答率が低く、理解度に課題があった。「勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的な回答は国語は67%、社会は89.8%、算数は69.3%、理科は78.4%だった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

中間評価(9月)
目標・策の見直し